

4-1. 図書館計画に欠かせない4つの視点

多摩市立図書館本館再構築基本構想
第四章 中央図書館づくりの進め方

多摩市の中央図書館機能の必要性とその整備のあり方について、図書館協議会は提言をしています。図書館システム全体を俯瞰しつつ以下のようにまとめています。

基本構想の議論では、中央図書館が都市の賑わいや活力を持って活動する為には、単独機能より複合機能を押し声もありましたが、あらためて図書館の本質を考えてみると、専門性、広場性、歴史性・地域性、市民性がもとより備わっているのです。古来図書館は「ひろば」として、複合的に柔軟に、そして必ず専門的に造られます。

① 資料・情報、職員・組織、施設・環境の計画と、それらを統合するという図書館計画には、3方面の「専門性」の総合化が必要です。

- 多摩市の新本館再構築計画で、一番難易度が高いのは、それぞれの図書館に役割分担して、図書を再配置し、主張性ある資料配架をどう行うかです。
- 二番目に難易度が高いのは、人の再配置に伴う各館の開館時間の調整など、市民的な理解と賛同が得られるか。共感を得られる道筋を歩けるかです。
- 新本館（中央館）の建築計画は、別記するような図書館建築に必要な条件を満足させるとともに、相当台数の駐車場が必要になるはずで、これらの複合的条件を候補となる敷地に構成配置できるかが課題となるでしょう。

② 多様な活動を受け入れ、人と資料と場をつなぐ計画には、自由かつ柔軟な場のしつらえの「広場性」と安全資料管理の両立が必要です。

- 開架室の資料に自由に接することができる図書館は、当初は目の届く小規模なものでした。CDや高価な写真集などが増え、形式的に出入口にBDSを付けただけの最近の図書館では盗難散逸がある割合で存在し、警察事件も生じます。BDSの誤作動も不愉快です。平面計画に安全管理性の視点が必要になっています。

※BDS：ブックディテクションシステム、本の持ち出し防止システム

- 開架室は、広場や大通りのような、行動自由な公共空間ですが、それだけに、何の計画配慮もなければ、騒がしさや落ち着きや多くの人々が共通に快適な共存の環境をしつらえることが困難です。開館後にマナー遵守の張り紙が踊る開架室が、各地で生まれます。
- 多様な出会いがあり、かつ一人にもなれる。求められる環境です。

③ 多摩市の人々と地勢がつつかった「歴史性」「地域性」を収集して、統合する図書館資料計画には、全ての行政部門との連携が必要です。

- 多摩市は、ニュータウン以降と既存集落の歴史が、積み重なってできた街です。過去の地域の遺産、記憶を収集して、アーカイブのような働きにまで高めるには、学芸員や自然科学の研究者との協力関係づくりが必要です。
- 図書資料の枠を越えて、デジタルデータに関心が動きますが、現物資料や語り部や専門の人材との出会いも、マルチメディアな図書館の出会いです。多摩には民間の地域研究集団がありストックに繋がる協働も可能でしょう。
- 現在進行形の、まちづくりに関わる行政各部門との情報収集開示の連携も期待されます。近隣では日野市の市政図書室が有名ですが、近隣市の出版物を毎年度に集めてきたストックは、体制づくりも含めて研究が必要です。

④ 人と資料と場の計画と、その企画・運営に、多様な意見を受け入れなければならない図書館計画の工程には、「市民性」が必要です。

- 市民協働は、行政からの情報やビジョンの開示とセットになってはじめて成立すると、かつて言われたものでした。
- また、行政の提示する政策ビジョンには、専門性は当然として、地域性と総合性が備わっていなければならないと、いわれます。
- そのうえで、なお、あらゆる施策について市民(公式な市民代表である市議会議員も専門的な市民代表です)に向き合うことが、求められます。意見交換会に参加できない、将来の市民の意見については、想像力を働かせることが専門職のしごとです。
- 円卓にすわる学習型の市民参加が、各地の図書館づくりで試みられています。

※出典：平成22年4月
多摩市立図書館協議会
「多摩市における中央図書館
機能およびその整備のあり
方について(答申)」2, 5,



7門/芸術の場のしつらえ。
本を知る司書による選書と
配架編集と表現、趣旨に沿
った場のしつらえ。3つの
専門性の総合化で場づくり

※図書館駐車場：参考例示
される浦安は図書館廻り
で280台、伊万里は170台。



図書館の本質は広場だという



資料館と協働で縄文の遺物を
ショーケース書架に展示する

※出典：平成22年4月
(3) 地域コミュニティの
中核としてP8-②、③、④。



輪になって「あたらしい図書館」を話し合う

4-2. 資料世界構築と開架室の配架表現

多摩市立図書館本館再構築基本構想
第四章 中央図書館づくりの進め方

多摩市の中央図書館や駅前拠点館、地域館では、どのような資料収集の方針を持つべきなのか、またそれぞれの開架室資料群を、どう構造化させ表現するのか、研究が必要です。現在の多摩市立図書館の蔵書構成や利用形態の特色と課題は明らかになっていますので、そこから中央館の開架室資料の在り方は、専門化、ワンストップ型、奥行き、ひろがり、など示唆されるところです。複数の研究委員会の立ち上げが望まれます。

- 多摩市では比較的低い資料予算にもかかわらず多様な図書購入がされている。
- それらは拠点館地域館に散散的に所蔵され、一図書館でアクセス出来てない。
- リクエスト数の多さは、一図書館での充足度が低いことが背景にある現象か。
- 専門利用に、一箇所であらゆる図書館の必要性が中央館に求められる。
- 本はどの分館へもリクエストで届けられるが、返却された館に留まっている。それは、バランス良く関係づけられた配架表現ができてない状態を意味する。

①. コレクション構築：各分野各主題資料/専門書/多摩市ならではの資料を長期的展望で収蔵と構築をしてゆきたい。

- 中央館の資料は、広がりとお行きを持たせ、ここにすれば一箇所、予約取り寄せしなくても、ことが足りる資料世界構築をめざしたい。
- 地域館には、子どもには基本図書・絵本・読み物を複本として常備させ、一般は、動かない本を引き上げ基本的で新鮮な資料と新聞雑誌は揃えたい。
- 関戸公民館の市民活動情報センターには女性学図書群が図書館とは独立して配置してあります。市内施設に分散する専門的で魅力的な資料についても共通書誌MARCにのせ、所在検索がどこからでもできるようにしていきたい。

②. 開架表現：個々の資料収集だけでなく、資料が関係づけられ棚上で沿わされて、資料世界の主題が表現されていて欲しい。

- 資料を俯瞰でき、読書人でもある図書館員が、選書した本を組み立てて、開架室のゾーンやコーナーや連や棚を駆使して、世界を表現して欲しい。
- NDC分類がふさわしい場合もあるだろうが、資料形態をこえて総合化された現代の主題に合わせて編集された混配などの棚表現も試みてほしい。
- 専門的な雑誌は主題で分類配架をして、バックナンバーを長く主題開架に留めるなど、展示表現に工夫と柔軟性をもって魅力化をしてほしい。
- CDやDVDや漫画なども、主題で分類し、図書と並べ配架されている。
- 書店などの面陳など、陳列法を研究し、魅力的な資料展示を研究したい。

③. 相談業務：充実したレファレンス、質の高い図書館サービスを。

- 個人の疑問や日常の課題解決など、クイックレファレンスも重要です。
- 地元企業、商店主、起業希望者、教員、行政、例示されているビジネス支援に留まらず、開架室全てを役立つ相談資料世界に組み立てて欲しい。資料提示に留まらず利用者と専門家を出会わせる機会提供につなげたい。
- レファレンスデスクの設置とレファレンス専門職の配置を行い、市民のさまざまな課題に応える働きを積極的に知らせるべきです。
- 市の行政や議員へのサービスを強化し、まちづくりにつなげるべきです。
- 全ての資料とサービスを「役立つ図書館」の認識につなげてほしい。

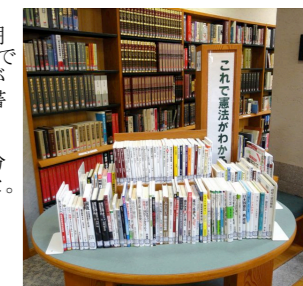
④. 資料保存：災害や温湿度に対応できて拡張性のある書庫機能を。

- 貴重な図書、地域資料の安全な保管場所を確保する必要がある。建築面積を増やさず積層書庫や可動集密書庫など他市事例を研究したい。
- 20年～30年は増設に耐えられる順次拡張性のある開架書庫を構想したい。
- 和書や漢籍や文書、日本画、掛け軸など、図書につながる「もの資料」を補完収蔵できる調湿収蔵庫が図書館で併設された他市事例にも学びたい。
- 開架室と開架書庫だけでなく、利用者が入室して自分で本を探せる準開架や公開書庫についても、その使い方を含めて他市の事例を研究したい。
- 学校支援やアウトリーチサービスに対応する複本資料やメールサービスの資料を整理準備する地域サービス書庫を、機能的位置に集約的に配置する。



世界と歴史を集めた箱庭のような表現展示

※カーリル：
1-07頁説明
※MARC：ITCで
自動判読が
できる図書
カタログ。
※NDC分類：
日本10進分
類法のこと。



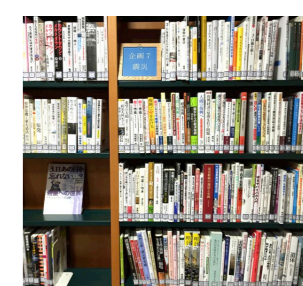
憲法を主題にNDCを越えて編集



支援を前面に法テラスの机台



雑誌特集を沿わせて文学展示



震災・原発：地域が直面する
課題に司書はアンテナを張り
タイムリーな企画棚をつくる

※出典：平成22年4月
多摩市立図書館協議会
「多摩市における中央図書館
機能およびその整備のあり
方について(答申)」
に記されていること。より

4-3. 大切な図書館員の専門性と職員組織づくり

多摩市立図書館本館再構築基本構想
第四章 中央図書館づくりの進め方

多摩市の中央図書館づくりでは、今、現況を知り、目標を語り、共感を確かめる基本構想の道を歩いています。そして、次の段階は図書館基本計画という、具体化のためのプログラムをつくる大切な工程に進むこととなります。その大きな柱に、「運営体制づくりと事業コストマネージメント」施策の再編と精査が想像されます。基本計画と併行したシミュレーションが求められますが、ここでも繰り返して、図書館協議会の提言を書きとどめておくことにします。

- 中央図書館機能を実現するためには職員(司書)の資質の向上は緊急の課題。
- 利用者が満足するサービスに対応できるよう研鑽とスキルアップが必要。
- 専門的業務に携わる職員を専門職(司書)と位置づけて、専門性を考慮した職員採用の検討が必要。
- 中央図書館は、あらゆる情報を結ぶ場、情報提供の場、情報センター運営などの多様な要である。多摩市にも中央図書館ができること、また、今後とも継続して多摩市が責任を持って運営することを強く望む。

①.市の直営による図書館運営、継続的な司書職員集団による図書館の運営を守るといった目標の利点と意義を確認したい。

- 公共図書館の管理運営については日本図書館協会が調査と意見表明をしている。「公立図書館の管理運営の基本：公立図書館は、地方公共団体が設置し教育委員会が管理することが基本であり、運営やサービスを提供することは自治体の責務です。設置者が図書館の運営方針や事業計画を定め、図書館運営を評価します。これらはすべて図書館現場でのさまざまな経験から構築されるものです。図書館事業は継続性、安定性が求められ、常にサービスの向上を目指しています。このようなことから図書館の管理運営は自治体が直接行うものであり、これを他の者に行わせることは望ましいことではありません。」(出典：図書館雑誌2016.11.VOL110.NO11.P722.)
- 上記の論考の背景には「教育基本法の前文」の社会教育の理念が伏している。そして、図書館政策のスタンスは地方自治体の社会教育の理念につながっている。

②.第一に職員の研修、専門性の向上を必要条件と考えて、段階的研修や業務に内在させた研修方式を研究したい。

- 図書館業務の環境変化に機動的に対応するため、通常の職務分担に加えて、係組織の縦割りを横断するプロジェクトチームの編成連携方式を導入して、(企画展示チームなど)オールラウンドプレーヤー・多能工型の組織編成を研究したい。また、先進図書館と人事交換交流研修の有効性も検討したい。

③.現状の経常的な図書館総歳費(1.3%)を増大させることなく、人件費の縮減と資料費の拡大をめざす研究をしておきたい。導き出される年間資料購入費が蔵書構築の計画条件となる。

- 専門職の人件費の縮減については、業務の中にある後進への教育や伝達、研究といった必要時間に留意したい。縮減は業務そのものの見直しが必要にならなければならないだろう。このプロセスが学びの形であって欲しい。また、その際、職員の安全には配慮が必要である。

④.編成する職員の仕事分担、仕事時間の合理的な見直しにより、全人件費の縮減と、全市図書館の人的資源の再配分の方策を研究したい。

- 正規職員、嘱託職員、非常勤職員、委託職員など、多様な背景を持つ職員が雇用される状況を踏まえて、新たな協働の体制を構築したい。その際、資質・能力・経験を仕事分担や待遇に適切に反映する仕組みの導入を研究したい。

⑤.人件費の縮減は、開館時間・開館日の見直しとも相関する。開館時間や曜日の調整をして、専門性を守りつつ歳費改革を果たした図書館先進国北欧の図書館運営の手法を研究したい。

- 図書館先進国デンマークでは、日本より20年早く行財政改革の試練を越えた。図書館は公共による直営と職員の専門性を守りつつ、分館群の開館の曜日や午前午後に分けた時限開館で、財政課題を解決した。高齢化と過疎の影響は自動車図書館を休止させ、個別訪問車や宅配便奉仕に変化した。ICT環境が導入され、市民の日常的利用と図書館支持は依然として盛んである。

※出典：平成22年4月
「多摩市における中央図書館機能およびその整備のあり方について(答申)」
P8(4)職員のあるべき姿
P9の5.終わりに より



サービスデスクをまかせて司書は相談に出る



資料世界をつくって待つ司書



相談者の人生に向き合う司書



司書は現実にアンテナを張る



くにおせんせいのお話 子どもと向き合う司書の心

4-4. 機能的/快適/魅力的/経済的な施設づくり

施設については、近年の図書館づくりでは共通して上記の目標が掲げられます。また、省エネルギー化やバリアフリー化については、新しい法律が整備され地方自治体の条例が細目を定めていますので、自動的に計画や設計がチェックされる体制ができあがっています。表題の4項目の要点を整理するまえに、ここでも前述の図書館協議会の答申から、該当する文章を書きとどめておきます。

- 図書館の設計にあたっては、利用者であるさまざまな市民の意見を聞くとともに、専門家の意見も十分に取り入れる必要がある。また、図書館建築に実績のある優れた設計事務所を選んで、使い勝手の良い、居心地の良い図書館を目指す必要がある。

①.機能的であること：

- 図書館建築は、成長し変化する図書館に対応して長期に審判されます。○図書館はその運営主体の意図によって千差万別ですから、その建築が機能的であるということは難しいことです。そして、当初の運営意図が変化して、建築は成長の邪魔をする困り物に成り下がるのが常です。機能的な図書館建築を手に入れるためには、設計に対して緻密な方針を与える条件プログラムを、図書館が準備することが一番大切です。○基本計画で条件プログラムが準備されたら、聞く耳と理解する知見のある図書館建築を熟知した設計者を選定して、図書館をどうしたいか協議協働します。そして開館後も図書館の友人として付き合いします。○図書館建築について語ることは楽しいことですが、図書館を図書館としてつくること、建築は大切だが目的ではないことを共感すべきです。

②.快適であること：

- 図書館建築を考えると3つの快適が語られることとなります。○まず、利用者にとってのさまざまな快適が考えられます。さまざまとは、静かさを求める人、賑わい出合いを求める人、それぞれの行為にふさわしい快適さがあって、近接したり同居したり折り合いが必要になります。グラデーションやゾーニングの工夫で解決が必要です。○次に、本の居心地も課題になります。物理的な温湿度環境の調節の他、本の主題が求める場の気分、出会うべき人との舞台場面も大切です。○地球環境にやさしい建築という視点では、CO₂の排出を少なくする、自然の気候を活用する工夫が、省エネの方針として取り入れられます。ガラス張建築が人気ですが、開架の南と西に大きな開口を造ることは、熱負荷と本の日焼から、かつての図書館建築ではタブーとされました。

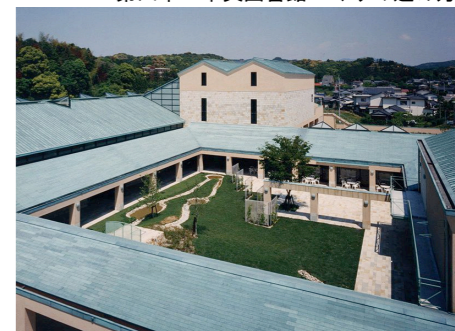
③.魅力的であること：

- 利用者をまた来たいと思わせることが、魅力的ということと考えます。図書館として、ふさわしい機能と環境が必要条件としてあり、それが時間を経過して活動が成長したときに、古びないことが求められます。不易と流行と古来言われますが、言葉遊びの一人歩きや花火のようなはかない結末に、公共建築は注意を払います。○都市的で複合的で広場的な性格を持たせる共用部や、集会や展示機能のスペース、フリースペースは、機能や場を持つべき雰囲気は刻々と変化する特色に対応させて、わかりやすく魅力的にしつらえることが望まれるところです。

④.経済的であること：

- 一番不経済なことは、施設が、機能や建築法令の変化に追いつけずに、建築の寿命を待たずに、取り壊しや建て替えになることです。活動の成長の方向性を予見して、可変性や拡張性を織り込んだ施設をつくるのが、いちばんの長寿命で経済的な建築と考えるべきです。また、運用に大勢の職員が必要な図書館建築の採用も不経済です。○建設と運用と修繕のトータルな費用をライフサイクルコストとします。建設など当初の投資費用をインシヤルコストといい、さまざまな低減の工夫がされますが、資金調達で大きな金利負担も要注意です。エネルギー消費や施設の点検メンテナンスにかかる費用がランニングコストですが、事業手法によっては運用の人件費も計上されましよう。○ランニングコストは、深夜電力利用など経済的な判断と、地中熱や井戸水や樹下の涼しい空気を利用する技術的な工夫が行われています。

多摩市立図書館本館再構築基本構想
第四章 中央図書館づくりの進め方



僧院に似た図書館の中庭、静かな目と心の為に



ほっとする野外読書テラスのある図書館がいい



冬期には床暖房の「図書館のサンルーム」のギャラリーで 読書しながらお茶を飲みたい



積層する開架書庫が開架室から見るとよい 下の層には利用者が入れる公開書庫がほしい



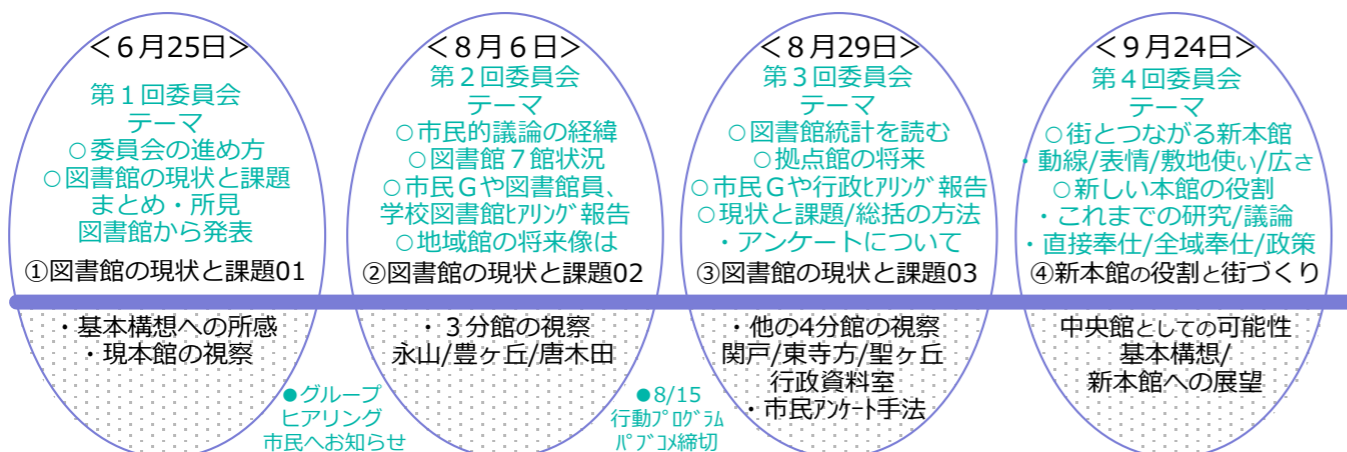
積層書庫の上の層には可動集密書庫が必要だ 本が増えたら、順々に書庫を増やせばよい

多摩市立図書館本館再構築基本構想策定委員会の経緯と構成

□ 基本構想策定委員会に併行するヒアリングや部会協議（委員会報告資料）

- 図書館員(専門職集団)との意見交換・課題研究/策定委員会に職員研究会からの意見。
 - △7/7. 第1回（話題提供：計画同人）・現状を図書館員が俯瞰議論する。・市民要望を館員から読み解く。
 - 「地域館/拠点館/新本館の今後」について、図書館員ひとりひとりの考えを策定委員会に届ける。
 - △8/4. 第2回（講師に松本策定委員）・図書館協議会での議論と意見。・新図書館へ体制の脱皮に。
 - 「新中央館とは、他市の比較、あり方」について、図書館員としての課題の例示/ワークショップ。
 - △9/24. 第3回（講師に常世田策定委員）・多摩市の図書館員有志の集まり・どんな日々の努力が大切か。
 - 図書館員としてどう学び直し、どう変わるか、図書館員としての課題への向き合い方
 - △9/24. → H23「基本方針・運営方針」とH28「読書活動振興計画」を「本館再整備基本構想の基盤」として策定委員会は議論する。
- 図書館協議会/教育委員会など（連携/政策集団）との 情報提示・意見交換 など
 - △7/21. 子どもの読書活動推進計画市民連絡会ヒアリング：地域の文庫活動や地域館での活動から図書館を考える。
 - △8/01. 企画政策/総務/教育部門と協議：行動プログラムの更新、財政展望・図書館人事・図書館施策の将来像。
 - △8/25. 図書館協議会ヒアリング：二度の図書館政策の総括的提言、読書活動推進計画と市民反響後の追加的研究。
 - △9/24. → H22図書館協議会「中央図書館整備のあり方答申」を「本館再整備基本構想の骨格」として策定委員会は議論する。
- 学校図書館員/行政資料室など（連携/類縁集団）との 情報提示・意見交換 など
 - △7/21. 学校図書館司書ヒアリング：学校図書館支援、教育支援、支援連携の展開←生徒一人利用密度と資料費。統計
 - △7/21. 行政資料室ヒアリング：行政施策との連携（行政支援/行政文書受け入れ/チラシポスター/地域資料構築）
 - △9/23. 学校図書館全体司書会ヒアリング：学校図書館の展望、中央図書館に望むこと、支援と連携について
- 逐次：中央館開設や今後のサービス方針に関わる状況のヒアリング
 - △ 図書館企画運営係報告：ボランティアの形、グループ状況、文庫連絡会との連携、障害者支援、
 - ▽ 基本計画段階での確認：青少年支援、幼稚園保育園、包括支援センター連携、病院支援、福祉作業所、ボランティアコーディネート展開/ブックスタート/共同参画/本のリサイクル/公民館図書室の展望/ほか、
 - △ 図書館協議会や大妻女子大松本先生：広域利用や都市連携、大学図書館連携、公共図書館連絡会、
 - △11/1. 経済観光課商工担当と協議：図書館のビジネス支援へのニーズ、多摩市の現在の創業支援施策と今後の展望
- ご希望市民グループ/図書館研究市民グループなどとの 情報提示・意見交換 など
 - △7/21. 多摩市に中央図書館をつくる会ヒアリング：中央図書館はなぜ必要か/図書館友の会への展望/今後の市民活動の連帯
 - △8/09. 地域図書館の存続を考える会（4団体）ヒアリング △8/25. 多摩市の社会教育を考える会ヒアリング
 - 9/24. 「公共施設の見直し方針と行動プログラム更新案に対する私たちの意見(パブリックコメント)」を策定委員会に提出。
 - △8/25. 多摩おはなしの会ヒアリング、 ○おはなしシュッポポの9月定例会からご意見が届く、
 - △9/24. → 「市政世論調査や各種アンケート」「行動施設の見直し方針と行動プログラム更新案へのパブリックコメント」「グループヒアリング」「説明会意見」など、これまでの図書館への市民意見をふまえ、原案素案への意見も積み重ねて、基本構想素案を策定委員会は議論する。
- 市議会子ども教育常任委員会勉強会での情報提示・意見交換
 - △11/10. ・基本構想策定委員会の進捗を館長が説明。検討資料の提出。各議員から質疑とご意見を伺う。

□ 基本構想策定委員会の構成と進め方

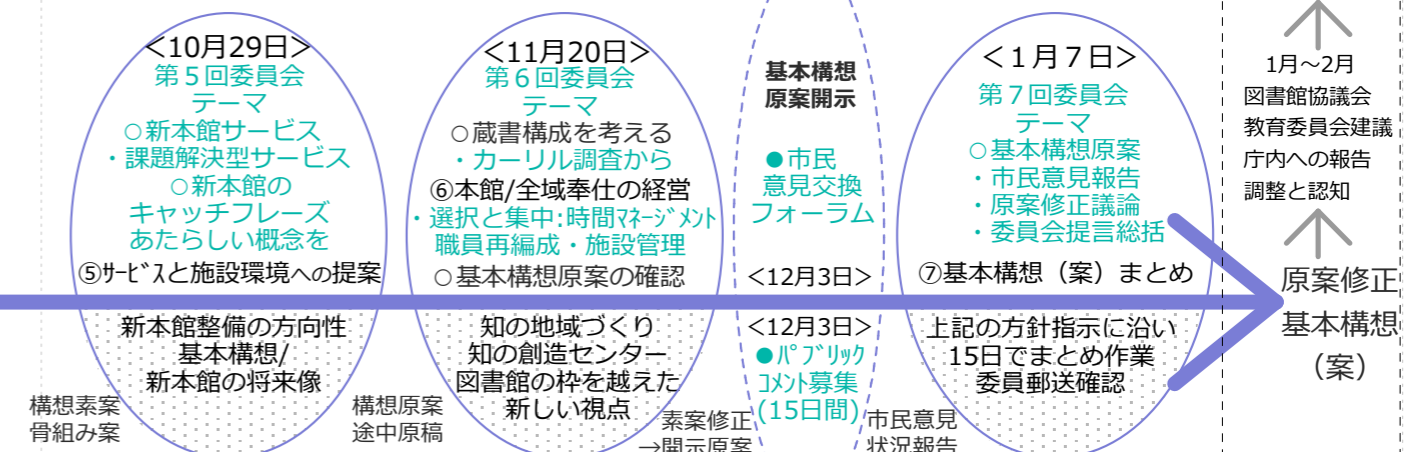


□ 基本構想策定委員会 委員構成

・任期：平成28年6月25日委嘱～平成29年3月31日

氏名	備考
ヤナギダ 柳田 邦男 (委員長)	学識経験者
トコヨダ 常世田 良	学識経験者
スズキ 鈴木 充	教育委員会委員
マツモト 松本 直樹 (副委員長)	図書館協議会委員
テラサワ 寺沢 史	学びあい育ちあい推進審議会委員
オナカ 尾中 信夫	都市計画審議会委員
チバ 千葉 正法	多摩市立小中学校長
ツジヤマ 辻山 妙子	多摩市民（子どもの読書活動推進計画市民連絡会）
アオキ 青木 洋子	多摩市民（多摩市に中央図書館をつくる会）
オオサワ 大澤 拓未	多摩市民（成人式実行委員から推薦）

□ 市民フォーラムの開催



□ 基本構想策定委員会の開催

- ・第1回策定委員会 平成28年 6月25日
- ・第2回策定委員会 平成28年 8月6日
- ・第3回策定委員会 平成28年 8月29日
- ・第4回策定委員会 平成28年 9月24日
- ・第5回策定委員会 平成28年10月29日
- ・第6回策定委員会 平成28年11月20日
- 市民フォーラム 平成28年12月3日
- パブリックコメント募集 平成28年12月3日
- ・第7回策定委員会 平成29年 1月7日

□ 基本構想 担当部局

多摩市教育委員会

教育長 清水哲也、
教育部長 福田美香、

□ 基本構想 事務局

多摩市立図書館
図書館長 中島 幸、
再構築担当 図書館主査 笹原亮志、企画運営係 福島直紀、
図書館業務からの協力体制
総務係長 原田 憲、企画運営係長 阿部玲子、
地域資料係長 藤田 純、子ども読書支援係長 村野静香、
サービス係長 兼 豊ヶ丘・唐木田図書館長 栗崎佳津美、
東寺方・関戸図書館長 阿部明美、
聖ヶ丘・永山図書館長 大田真澄、

支援コンサルタント (株)寺田 大塚 小林 計画同人、
寺田芳朗、小林春奈、中野寛之、

